

水使用実態把握に向けたスマートメータのデータ活用技術に関する調査研究

1 背景

- 当局は、デジタル技術を活用したお客さまサービスの向上や将来を見据えた業務の効率化、最適化等を目的として、「水道スマートメータ先行実装プロジェクト推進プラン」を令和4年6月に策定
- 推進プランにより、令和6年度までに約13万個のスマートメータを導入
- スマートメータの導入効果を確認して、2030年代までの全戸導入につなげていく予定



(東京都水道局HP)

2 研究内容

- これまでの検針はほぼ2か月に1回の頻度であったが、スマートメータの導入により1時間に1回の水量データが得られるようになる。これは従前の1,440倍にあたるデータ量であり、スマートメータによる検針データの有効活用を検討

3 求める技術

- 技術革新がめざましいICTを活用して、これらのデータを整理・分析することで、水使用実態や地域特性の把握ができる技術
 - (1) 膨大な水量データを整理・可視化できる技術
 - (2) 水量データと指標を結び付けて把握・分析・可視化できる技術
 - (3) 日々蓄積される水量データや、新規に設置されたスマートメータ、指標が追加された際に簡単に情報が更新できる技術
 - (4) 欠損や異常値を自動的に補完する技術